

# 支える人々

地道に活動を続けるひとりの姿に心が動く。同じ思いを持った地域の人たちが集まり「オシドリグループ」が誕生しました。グループの行政に頼らない自主的な活動と努力が人々の心に響き、交流・支援の輪が広がっています。飛来してくるオシドリ、観察に訪れる人々のために裏で支える人々がいます。

## ひとりの活動が心を動かす 地域の仲間が集まる

日野川で、えさをまき続ける池岡幸三さん(舟場)の背中。地道に活動する姿が人々の心を動かしました。オシドリの保護活動に協力したい。集まったのは、同じ思いを持つ地域の仲間たち。平成7年に「日野町オシドリグループ」が誕生しました。

グループ(池岡幸三代表、計5人)のメンバーは、えさ集め、観察小屋の管理運営、観察に訪れる人々の案内役をかう。そうした活動も10年になりました。

その間、鳥と人が共存できる関係づくりを目指し、オシドリが警戒しないよう自分たちで観察小屋を建設。町内にドングリが実る樹木の苗を植えたり、河川清掃など環境整

備も行いました。また、オシドリのことを理解してほしいと積極的に情報発信もしています。

## 観察に訪れた人を迎える オシドリ案内人

美しいオシドリやグループの活動が報道されると、まちは「オシドリの里」として有名になり、全国各地から多くの人が訪れるようになりました。その人々を温かく迎えているのが、オシドリグループや地域の人がボランティアでガイドする「オシドリ案内人」です。

忙しい日は、朝から晩まで人の流れが途切れることなく続きます。1日500人が訪



来観者を誘導する案内人。親切な対応が慕われる

オシドリの情報が満載  
オシドリグループホームページ  
検索 オシドリ〜オシドリの住む町へ  
<http://www.5.enjoy.ne.jp/~oshidori>



オシドリグループを支援  
木島 泰さん(根雨)

少しでも協力できたらと思い、休日に案内人をしています。活動や人との出会いは、自分を成長させてくれます。これからも交流や支援の輪が広がっていくことを願っています。



宇部野鳥保護の会会長  
宗本正行さん(山口県宇部市)

このすばらしい環境は、グループが長年努力されてきた成果だと思えます。地域全体で取り組む姿勢もすばらしい。このまちは環境や人づくりがすすんでいると感心します。



団体客が来るといことで、この日は多くの案内人が集まった

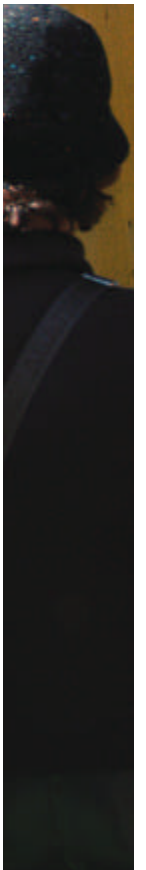
れたこともありです。しかし「建物に人がいなければつまらない。多くの人にオシドリの魅力を伝えたいから」と案内人は苦にしません。3年前から案内人をもって出る音田松枝さん(根雨)は「観察小屋では、多くの人との出会いがあり、皆さんとおしゃべりしながら楽しい時間を過ごしています。まちの観光案内をしてあげると喜ばれます」と話します。

休日返上の案内人

その温かさに人々は感激

観察シーズンの11月から3月下旬まで、案内人は休日返上です。主に5人程度でスケジュールを組み、交代しながら案内しています。

休日になると大型バスなどでやって来る団体もいます。そのときは地域の人に協力を呼びかけて対応しています。案内人は、オシドリの生態や地域の観光案内などについて説明。親切な対応は、オ



シドリの美しさ以上に人の心にやすらぎを与えます。山口県宇部市の田中潤子さんは「人をもてなしてくれる温かさが、また来たいという気持ちになる。地域の協力体制も素晴らしいです。」

オシドリは人をつなぐ天使  
広がる交流の輪

米子市の小坂智さんは「スコープの位置をすぐに見れるようにしてあるんです。その細やかな使いに感激です。初めてなので見るだけでは分からないことがあったので、

観察小屋にある記帳簿には、美しさのほかに「親切な案内人に会えてよかった」と書かれています。その言葉どおり、グループ事務局の森田順子さん(根雨)の元には感謝や激励の手紙が届きます。森田さんは「人が感動を伝え、それを聞いた人がやって来る。オシドリは人と人をつなぐ天使です」と言い、どんなに忙しくても1通ずつ必ず返事を書きます。

ドングリやくず米などオシドリのえさは、全国各地から年間700件以上届きます。「毎年忘れずに送ってくれる人がいます。遠く離れていても思ってくれる。うれしいことです」と満面の笑みで話す森田さん。

今までグループが取り組んできた足跡、送られてきた手紙や写真などはきちんと整理され、その冊数は50冊以上。すべてが大切な宝物です。



場所が分かりやすいようにと、のぼり旗を立てるオシドリグループのメンバー